

目次

「北の工作員」養成基地

「朝鮮大学校」の生存は許せない！ 8

元朝鮮総連活動家 卓 賛浩

美濃部亮吉「都知事12年」と朝鮮大学校 19

北朝鮮は国民の生命と人権を守る会副代表 三浦 小太郎

朝鮮大学校の認可は妥当か 31

現代朝鮮作家 イフターチン作 野田 数

朝鮮大学校の認可を見直せ 37

東京都議会議員 萩原 遼

朝鮮大学校の認可を見直せ 37

2010-2011年度 北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会活動方針 82

李英和さん講演会「始まる前に終わっている」金正恩体制 84

2010年4月2日 守る会西文部 学習委員会

金正日総書記死後半年 89

山田 麻

金正男独立宣言「父・金正日と私」を読んで 94

2010年4月2日 守る会西文部 学習委員会

特集2 どうみる？金正恩体制 92

朝鮮大学校の認可問題について 42

バックナンバー『光射せ！』9号(2012年6月1日発行)の内容

各地で広がる「朝鮮学校への補助金問題」
奥松邦 画刊的な法廷「朝鮮学校は平成十四年まで補助金を享受化しない」
大庭哲 大阪府朝鮮学校の補助金振り込み額未だ実績開示義務者 山口 敏 117

堀内洋 拠致解決なしで補助金を出すしないと議論会決定 128

佐藤真実 「朝鮮学校の800万円支出は不当」の裁判敗訴 127

広島でのたなかい 136

守る会員 安藤 火山 136

前川 恵司 140

元朝鮮総連活動家 卓 賛浩 140

元朝鮮総連活動家 三浦 小太郎 145

勝海舟の東アジア認識と「文明開化」観 157

元在日の美術家は北はどう生き延びたのか？ 157

（金日成島）桂冠人、人民藝術家、金秉姬の歩んだ道 147

東風吹かば匂いあごせよ梅の花… 147

勝海舟の「三本の梅の木」に想う 147

元新潟県立図書館協力会常務局長 小島 啓則 147

北朝鮮での生活の思い出 147

編集 あとがき 147

北朝鮮での生活の思い出 147

元新潟県立図書館協力会常務局長 小島 啓則 147

北朝鮮での生活の思い出 147

北朝鮮での生活の思い出 147

北朝鮮での生活の思い出 147

北朝鮮での生活の思い出 147

北朝鮮での生活の思い出 147

私の家族の境遇を見ても、どちらが人間として正しい親とともに帰還事業も終らうとしていた昭和四十八年（一九七三年）、当時朝鮮総連が「地上の楽園」と宣伝していた北朝鮮に渡りました。

北での三五年間、国外とは遮断され、自由など一切無い地獄のような独裁社会で生活するだけでも大変な環境でした。それより耐え切れないのが在日帰国者と言う理由だけで監視の対象（党、治安当局、秘密警察）として暮らしていくことでした。

そんな過酷な生活から命がけで北朝鮮を脱出し、生まれ故郷である日本に帰ってきた者であります。

北朝鮮に行くときは朝鮮総連が斡旋して出国手続きをして出国しましたが、帰つて来るときは心ある日本の方々が入国手続きをして迎え入れてくれました。

私は在日二世として大阪で生まれ育ち一五歳のとき両親とともに帰還事業も終らうとしていた昭和四十八年（一九七三年）、当時朝鮮総連が「地上の楽園」と宣伝していた北朝鮮に渡りました。

私の家族の境遇を見ても、どちらが人間として正しい親とともに帰還事業も終らうとしていた昭和四十八年（一九七三年）、当時朝鮮総連が「地上の楽園」と宣伝していた北朝鮮に渡りました。

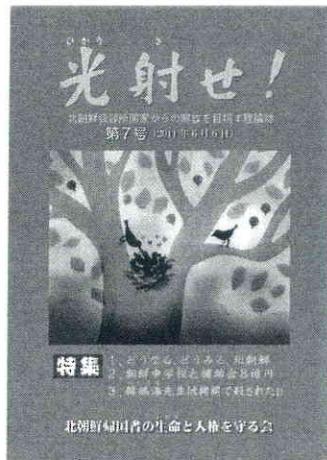
もちろん当時朝鮮総連は情報不足で自分たちは「北朝鮮の実態をよく知らなかつた」と言うでしょうが、現在はどうですか。

まだ金王朝独裁国家を「地上の楽園」と思うのですか。誰一人そんな事を思う人はいないでしょう。

過去、自分たちがあやまちで九万三千人を向こうに渡らせて、命がけで帰つてきた同じ同胞を出迎えもできなさいのですか。何が一体あなたたちを人間として当たり前の行動をとれない存在にしたのか。まともな思考能力を持つ人間ならいざ加減に目をさましなさい。

あの金王朝独裁国家で独裁者たちの贅沢三昧のために国民たちがどんなに苦しんでいるのか知らないとでも言

在日脱北者人権連合代表 南 新一



『光射せ!』7号

導部書記に
なり一年後、
その権力を
悪用して国
家保衛部
長・金秉河
を先頭に反

抗する者たちに代わって私から総聯イルクンたちに教えてあげましょう。

犠牲者たちは北朝鮮の治安当局、国家保衛部員、武力部保衛司令部員たちの手によって獄のように扱われ、拷問と餓えの末、亡くなりました。

一九七四年、金正日が後継者と認められ党中央組織指導部書記になりました

対勢力を
も失敗した自分の人生をどう振り返ったでしょうか。
自分は死ねばおしまいだが、こんな地獄に残していく
家族のことを思い、ろくに目をつむれなかつたでしよう。
そのとき誰を恨んで亡くなつたであろうか…。
しかしこの人たちはまだましである。

独裁政治の餌食になつた人たちはどういうふうに亡くなつたでしようか。

犠牲者たちに代わって私から総聯イルクンたちに教えてあげましょう。

犠牲者たちは北朝鮮の治安当局、国家保衛部員、武力部保衛司令部員たちの手によって獄のように扱われ、拷問と餓えの末、亡くなりました。

一九七四年、金正日が後継者と認められ党中央組織指

次々とスパイにしたて肅清したのち、元総聯イルクンたちが次々とスパイ容疑で捕まつて行つた。

(一九七一年、総聯内部での権力争いに敗れた金炳植第一総聯副議長がまだ現役時代に自分自身の反対勢力を北朝鮮に送つた後、書類には「?マーク」つけて朝鮮労働党宛に報告していた。

これは推測だが、元総聯イルクンたちがスパイ容疑で捕まつたこの事件では、これしか説明のしようがない。もちろん本人たちは獄中で拷問に耐え切れず、偽りの証言をする人、最後までスパイではないと証言しながら亡くなつた人もいました。

例外なくその家族たちは政治犯収容所に送られました(『光射せ!』7号「韓鶴洙先生をしのんで」を参考 上写真)。

その後、一九七〇年代末(一九七九年と記憶)国家保衛部長・金秉河を証拠隠滅のためスパイ容疑で肅清する。金正日はそういう人間の顔をした魔魔である。

金正日時代には反対勢力の肅清、国内情勢が不利になると、いつものようにこうした事件が起きるのです。

一九九一年にはフルンジエ・アカデミア事件では旧ソ連の指示をうける反政府団体と名付け、数百人の旧ソ連

うのですか。

総聯を財政危機に追いやつたのも、金正日と許宗萬の仕業ではないのか。なぜ現実の根本を見抜くことができないのか。なぜそれを黙認するのか。

自分たちの発言もできない、上の指示に無条件に従えといわれ、盲従盲動するから何の罪を犯しているかもわからないのでしよう。

帰国事業におけるあなたたちの罪がどれほど重罪であるか実例をもつて教えよう。

多くの同胞を帰国させた総連幹部が北で自殺

一九六〇年代初め総連の末端で働いていたイルクン(専従活動家)が組織の命令という名目で、帰国運動に加担し「地上の樂園」と自分が責任もとれない宣伝文句を在日同胞にしてまわつた。結果、何人もの人たちを北朝鮮に送り、何年か後にそのイルクン自身も北朝鮮に渡りました。

清津に着いたとたん、他の帰国者たちと同じように、宣伝とはまるで異なる実態を目前にして落胆しました。数日後、そのイルクンは地方都市に配置されることになる。

自殺をする自由もない北朝鮮では、家族たちがその事実を隠し、お金をつぎ込んでまで病死したように見せかけ、家族はからうじて大事(山奥に追放)にはなりませんでした。これは、そのイルクンの息子が私に話してくれた実話であります。

もちろん、一部の人を除いた、実情を知らないイルクンたちが、在日を北朝鮮に送るのに加担した過去を思い、心を痛めている方もおられるでしょうが、何食わぬ顔をして定年をのんびり暮らしている魔魔のような人たちもいます。

九万三千人の人生を狂わせたことが、このままでおさまるでしょうか。九万三千人の内、大半は他界されました。北朝鮮で運よく何の迫害も受けず亡くなつた方々で

これからどう生活していくべきか悩んでいるところへ、自分が帰国させた人たちが一人、二人と訪ねてくるや、「お前のために俺の人生が狂つたのだ、どうしてくれるんだ！」

一人、二人でもない数人が駆けよつたそうです。

ひとの人生を狂わせた実態に自分の犯した罪の重さを実感したそのイルクンは罪悪感に悩んだ挙句ノイローゼになり結局は自殺してしまいました。

軍事留学生出身者たちを肅清した（旧ソ連崩壊前後KG Bが情報を漏らす）。

その結果、金正日はその年の十二月に父親から朝鮮人民軍最高司令官の座をもぎ取るように受け継ぐ。

一九九四年北朝鮮での一大事、金日成の死（私は金正日の暗殺と思うが）んだ時である。この時から地方では配給制度が崩壊しはじめ、国民の餓死が始まっていた時期である。

金日成の死によって一人独裁になつた金正日はまず、国民の動搖を抑えるため、外敵をつくりその外敵に備えるため戒厳令をだし国民たちを黙らせた。

そのつぎ、金日成の側近たちを次々と肅清していくが、肅清の時はいつも国家保衛部を先頭にスパイ容疑をきせるのがいつものやり方であるが、このときは肅清対象が対象だけに国家保衛部も完全に信用できなかつたのか、武力部保衛司令部という部署を国家保衛部と同格に格上げして、二刀流で徹底的に敵を肅清していく。金正日はまず、「徐寛熙スパイ事件」を作りあげました。

徐寛熙が最初の犠牲者に選ばれた理由は、中央党農業書記をスパイとしてすることで主体農法失敗の責任を金正日

ちは大半理由も無く捕まつていった。

元山では日本からの投資で運送業を営んでいた李○○をスパイ容疑で逮捕した後、関連者一〇名が捕まつていつた。

罪もない党幹部たちも韓国と結びつけ「人造スパイ」を作り出すのが当局者たちである。

日本と関わりのある帰国者には、日本と韓国を結びつけるのは朝飯前であろう。

李○○本人はもちろん一〇人が拷問のあと、「反党反政府集団」との有罪判決をうけた。

そのうち一人は財産没収されたあげく山奥に追放、残り九人は武力部保衛司令部に投獄、家族は政治犯収容所送りとなつた。

判決が決まつた後、家族たちを直ぐに収容所に送るのではなく、わざとひと月ほど日を置いて一所帯ずつ送るのであるが、本人たちのその間の恐怖というのは、極度に脅えており、玄関をノックするたび「来るときがとうとう来たか」と恐るおそる扉を開けるという日々が続いた。

後で分かつた事実だが、このひと月あまりの期間がただ家族たちに恐怖を与えるだけの期間ではなく綿密に計

政権ではなく、韓国政府にすり替えることができた、また当時多発していた餓死者に対する責任もなすりつけようと計つた作戦であった。

徐寛熙が本当に政治的な目的を持つスパイだとすれば、労働党講演資料で述べたように「書記の権限を悪用して肥料三〇トンを親戚らに横流したなどの経済犯罪」を犯したでしようか？

結局、平壤での公開処刑で銃殺されることになる。

国家保衛部と武力部保衛司令部は上の命令で取り調べた関連者百名あまりを含めたこの「大スパイ事件」で肥料三〇トンを親戚らに横流したなどの経済犯罪」を犯

れてていた。

命令には従つたが、自分たちに与えられたものは何もなかつた。

彼らも自分たちの配給だけで、家族の配給はなかつたも同然であつた。

そこで「今握っている権力をもつと合理的に使おう」と考え出した標的が日本に裕福な両親（親戚）を持つ帰國者であつた。

特に、こうした帰国者が集中しているのが平壤と元山である。

平壤では日本にいる親の投資で飲食店を営む帰国者た

算された期間であった。

主人の判決が有罪（政治犯）に決まれば、家族は収容所に行くのは北朝鮮では当たり前であるが、家族を守ろうとする人間の本能を利用して人の血を吸う奴らはどこにでもいる。

取り調べをした担当員に「どうにか家族が助かる方法はないでしようか」とすがりつくと、「あなたの家族は他の人に比べて罪は軽いほうだが、決まりを覆すのは難しい。だが、一応上司には話をしてもみよう。結果はどうなるかは、私には答えられないが他人には内緒にしていたほうが話を進めやすい」と、小さな期待をもたせる。

この時、人間の心理というものは暗黒の世界からわずかな光を見たような錯覚をおこし、それに期待をかけるようになる。

あの社会ではこういう時は先だつものがいる。

急いで日本の両親（親戚）に電話で一大事であることを知らせ、送金を願う。

北朝鮮にいる家族のため、何回も北朝鮮に通わされた両親は大体の事を悟り送れるだけ送金することになる。

それが到着するのに約一ヶ月である。

結局、全世帯が一世帯五〇～一〇〇万円の賄賂を担当

員に渡していることが分かつた。

(当時、一年の仕送りが一〇萬円あれば、帰国者一家五人がみすばらしくない生活ができる。現地の人の場合三万円で餓えはしのげた)。

罪もない人を拷問でスパイの濡れ衣をきさせ、人の命を奪つた後、この賄賂をもぎ取ろうとする悪魔の集団は、このために何年も前から計画をたてていたのです。

一旦犠牲者たちが収容所に入れば、日本から駆けつけた両親たちが収容所から犠牲者を出所さすためには金額は億単位であり、保衛部の管轄外で金正日に直接入る金である、もしこの金に手をだすと自分はもちろん家族までの墓穴を掘らねばならない事を知つてゐるこの集団は執念深く待つのです。

判決から二カ月後、九世帯全員収容所に送られることになる。

この時の、しうちはひどく、嫁をもらつた息子（強制離婚）はもちろん、嫁にいった娘まで（娘婿とは強制離婚）収容所に連れていきました。

李○○の妻、高○○さんは子供たちには悪いが、自分は強制労働に耐え切れないのは分かつていたため、収容所行きのトラックの荷台で毒薬を飲み自害しました。

廻し者だと決めつける慣習があります。

いつも架空の敵が居ないと国民たちを統制できない國家である為、そうせざるをえないのでしょうかが、国内統制が目的のこのシステムに、情報の溢れたこの国で貴方たちまで騙される理由は何ひとつありません。

私は敵の廻しものでもなんでもない平凡な者であり、私の話には何の偽りも無い私が北朝鮮で見て体験してきた事です。

もつと話が聞きたいのなら、誰といつどこででも対話の用意ができます。

朝鮮学校に通う学生たちよ！

もう一つ述べたいのは、朝鮮学校は私の母校であります。

私の父親は生前を民族教育に捧げ、あの激動の時期に学校を築き上げた人たちのなかのひとりでした。

あの当時のイルクンたち、同胞たちにとつて朝鮮学校は命にも変えられない血と涙の結晶でした。しかし、それは当時の民族教育、つまり民族語と民族の歴史を教えていた頃の話です。

今日朝鮮学校では、子供たちに金日成、金正日の偶像

先ほど述べたように、日本から両親が駆けつけ二世帯が派出所してきて、この事実が明らかになった。

これが貴方たちの祖国の実態であり、過ぎ去つた過去の話ではないのです。

こういう封建社会でしか聞いたことない人権蹂躪をまだ続けていこうとするのが三代世襲であり、実際に金正恩が政権を握つた後今日まで三一人の党、軍、行政の幹部たちが肅清されている。

私の話は過去進行形ではなく現在進行形であります。その祖国と三代世襲に両手を上げて賛同しているのが貴方たちです。

正義が何かわからなくとも悪は何かわかるでしょう。人間はこの世に生をさずかりやがて死んでいくのは自然の撃です。代をつぐ人生の積み重なりが歴史でありその歴史のなかで自分が今どういう時期に、どういう立場で、どう生きているのかを見直し、正しく生きて行くのが後世のためにできる自分自身、人間としての役割ではないでしょうか。

貴方たちも被害者であることは誰よりも元朝鮮総連責任であつた父をもつ私はよく知つています。北政権は自分たちを非難し正しいことを言う者を敵の

化教育、歪曲された歴史を教えるのが現実です。

これは新しい世代に対する人権問題である。

そんな訳で朝鮮学校に補助金をやつてはいけないと、北朝鮮に帰国して無念に亡くなられた元総連イルクンたちを思い浮かべながら私は訴えます。

「新しい世代に歪曲された歴史を教えてはいけないと。

正しい歴史を教えられない、それこそ北朝鮮政権が間違つてゐる証しです。

北朝鮮国内はもちろん、在日朝鮮人社会の朝鮮学校学生たちが習つてゐるのは、歪曲された歴史となぜ言うのかを真実をもつて、そして独裁者たちがどんな人間たちかを暴露します。

まず、金成柱は偽物の金日成であることをご存知ですか？

一九二二年頃に日本帝国主義に反対し、南満洲に近い朝鮮北部で戦つた金日成は植民地となつた国の運命を救つてくれる象徴の人物であつた。

一九一二年生まれの金成柱が一〇歳で抗日鬪争はできないのは言うまでもない。

一九四五年八月十五日、日本の敗戦した約一月後の九

月、ハバロフスクから出港したソ連の軍艦「プガチョフ」が北朝鮮元山港に上陸した。

そこにはソ連占領軍と共にスター・リンに忠誠を誓つたソ連軍大尉・金成柱も含まれていた。

彼は年齢が倍も違う「金日成將軍」に成り済まし北朝鮮を共産主義化し、さらに韓国、日本まで共産主義化する任務をうけ、こつそりとやつてきた。

この日から悲惨で残酷な恐怖政治の嵐が吹き荒れ、多くの人々が権力争いにより肅清される惨劇が引き起されたのである。

君たちが偉大な大元帥金日成様、敬愛する金正日将軍様はどんな人たちか見ていいこう

日曜日は人類共同の休日です。

米国と旧ソ連の冷戦時代にも日曜日は赤く表示された日でした。

そのため、システムと宗教の違いを超えて、日曜日はこの地球すべての国が共有する平和の約束でもあります。そんな日曜日に私たち民族は六・二五という戦争の痛みを経験しました。

その戦争を北朝鮮政権は「北侵の日曜日」と言います。

を敢行しました。

その中で代表的な挑発が一・二一青瓦台奇襲事件です。朴正熙大統領を暗殺するために、金新朝（生存者）ほか三一人、北朝鮮武装ゲリラがソウル都心青瓦台近くまで浸透したが、韓国警備隊によつて消滅した事件です。

一九六八年一月二十一日、その日もやはり日曜日でした。もし北朝鮮政権の意図どおりに朴正熙暗殺が成功した場合は、その権力の空白を狙つて北朝鮮は再び日曜日に第二の六・二五戦争を犯したかもしれません。

北朝鮮の韓国大統領暗殺未遂は一度だけではなかつた
朴大統領に続き、北朝鮮はその次の政府の全斗煥大統領を暗殺するためビルマで爆破事件を敢行します。

当時、全斗煥大統領は、数分間の差で災難を免れた代わりに、韓国政府の長、次官一七人が現場で即死し、一四人が重軽傷を負つた。アウンサンテロ爆破事件として記録された一九八三年十月九日、その日もやはり日曜日でした。

ビルマ駐在北朝鮮大使館はその事件をきっかけに追放されることになります。

また、ソウル八八オリンピックを妨害するために、北

米国が韓国と共に謀して戦争を起こした日曜日だと主張している。これをもつて、北朝鮮政権は住民たちの敵対意識の中に、日曜日も平安であつてはならないと強要しています。

しかし、祖国分断のカレンダーを広げてみると日曜日の平和はいつも金氏政権によつて破られてきました。六・二五は、金日成政権が挑発した南侵の日曜日でした。

その真実は、旧ソ連の外交文書でも既に証明されたし、スター・リンと毛沢東に戦争を承諾してくれることを頼願していた金日成の自筆手紙も世の中に知られています。

北侵なのか？ 南侵なのか？ という疑問は戦争が始まつて三日目に平壌ではなく、ソウルが占領された事実だけでも十分に理解することができます。

また、『朝鮮戦争』（萩原遼）、では戦争時代米軍が集めた北朝鮮資料をもとに戦争勃発当時の北朝鮮軍の配置などが具体的に記述されているため、軍事に少し詳しい人なら誰でもが北による侵略戦争であることがわかる。これが金氏政権によって、日曜日に始まつた私たちの民族の悲劇でした。

戦争後も、北朝鮮は日曜日を狙つて継続的な武力挑発

朝鮮政権はバグダッドからソウルに行きの大韓航空機八五八便、ボーイング七〇七機を爆破させ、韓国の労働者九三人を含めた総人員一一五人を殺しました。

一九八七年十一月二十九日、「KAL機爆破事件」で全世界を驚愕させたあの日も日曜日でした。

北朝鮮はKAL機爆破事件を否定したが、金正日の指示を直接受けて派遣されたテロ犯金賢姫の生存証言に素直になれないその犯罪まで追加されて、今日まで国際テロ支援国に指名された状況です。

北朝鮮政権は住民に経済難の責任は米国主導の国際封鎖のためだと洗脳しています。
しかし、その封鎖の原因は、理念の問題やシステムが違つているためでもありません。

金正日の国際犯罪に対する相応の措置であつた、また今現在もそれに関する一切の反省もしないからです。

二〇〇九年四月五日、金正日政権は、「光明星二号」という長距離運搬ロケットを発射しました。北朝鮮TV放送は軍事的目的という世界の非難を避けるために、平和的衛星と宣伝したが、これもまた日曜日でした。

四輪車もろくに作れない國力に住民の生活ではなく、軍事的膨張だけ専念する金正日政権に怒り、国際社会は

制裁を決議します。

その時まで、中国は北朝鮮との同盟を意識し、棄権票を投じたが、それから一ヶ月後、二〇〇九年五月二十四日、北朝鮮政権は朝鮮半島を越えて、地球の日曜日に向かって二回目の核実験まで強行するに至ります。

もちろん長距離運搬ロケットも核実験もすべて失敗作だが、それでも続くその冒險的な火遊びについて中国は激怒して、国連安保理理事会で北朝鮮制裁決議案に賛成票を投げます。結局、韓国と国際社会を相手に犯しにきたテロと挑発の日曜日が金氏政権を脅かす制裁の日曜日として帰ってきたわけです。

君たちの歴史教科書とはあまりにも違う内容です。だから私は偽りの教育を受けていると言うのです。

結果、北朝鮮独裁者たちの言いなりになってきた朝鮮



『わが朝鮮総連の罪と罰』
文藝春秋 韓光熙・著
野村旗守・取材構成

総聯はみす
ぼらしい姿
にかわりま
した。
イルクンは
全員が貴方

たちと同じ教育を受けていたからである。
この恐ろしい洗脳教育で日本人拉致の手助けをした総連幹部が自分の人生を振り返りながら反省の思いを『わが朝鮮総連の罪と罰』(韓光熙・著 左写真)に著述している。
世界平和のため地下鉄サリン事件を敢行したオオム真理教と何が違うのです。
間違った教育とはこのように恐ろしい結果をもたらすのです。
学生諸君、お分かりでしょうか。

朝鮮総連は今でも遅くない、目をさまし、北朝鮮政権に盲目に従うのではなく、同胞たちの権利を擁護するという原点に戻り、在日の子供たちが日本でより良く共存できる平和で明るい未来を築いて行きましょう。



朝鮮学校の実態を隠ぺいするな！

朝鮮総連の論客「朴三石」を批判する

「外国人学校」(中央公論)、「知っていますか 朝鮮学校」(岩波ブックレット)を中心

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会 副代表 三浦 小太郎

朴三石著 「外国人学校」(中公新書)

せつかくの良書なのに朝鮮学校の記述は不適切

一九七七年に朝鮮大学校政治経済学部を卒業した朴三石は、現在、朝鮮学校問題、また外国人学校の問題について積極的に発言している識者の一人である。著書『外国人学校』は、日本における外国人子弟の教育の実態と未来を総合的に考える上できわめてわかりやすい文献の一つである。しかし残念ながら、ここで一言付け加えておかねばなるまい。「朝鮮学校の記述を除けば」と。

二〇〇八年に書かれた本書にて、朴は外国人学校の実態を的確に指摘している。まず、外国人学校を、特定の民族や国籍を持つ子供たちを対象とした教育内容を取り、

特定の民族の言語を授業用語とする「民族学校」と、民族や国籍を問わず外国籍の子供たちを対象とし、国際共通語(主に英語)を授業擁護とする「国際学校(インターナショナル・スクール)」に分け、しかも現在の日本の法律では外国人学校に対する定義がないこと、それゆえに様々な問題が起きていることをきちんと指摘している。

また、本書が書かれた二〇〇七年度では、日本における外国人学校二二一校のうち、外国人学校は一八八校、このうちかつては多くがアジア系の民族学校だったが、現在はアジア系民族学校八三校、南米系民族学校が九八校、欧米系が七校と、南米系の外国人学校が半数近くを占めていること、その理由はブラジル人学校の急増であること、これは一九八〇年代以後、経済のグローバル化